

車いすの使用に関してお聞きします。当てはまるものに○をつけてください。

- () 4) 車いすは使用していない。
- () 5) 主に自分だけで操作できる。(車いすへの移乗の手段は問いません)
- () 6) 主に他人が操作しているか、もしくは、見守りをしてもらっている。

34 【4-(1)】(生活機能 移動)

歩行時、歩行補助具(杖やシルバーカーなど)や装具などをお使いの方にお聞きします。

- () 1) 訓練のときのみ使用している。
- () 2) 日常的に屋外歩行時に使用している。(遠出の際のみ、時々の使用も含まれます)
- () 3) 屋内の日常生活行為のみに使用している。

35 【4-(2)】(生活機能 栄養・食生活)

食事について、次にあてはまるものに○をつけて下さい。

- () 1) イ。何とか自分で食べられる(見守り・励まし・身体的援助も含む)
- () 2) ロ。全面的な介助が必要である。

36 【4-(2)】(生活機能 栄養・食生活)

気づいた事があれば○をつけてください。

- () 1) 食欲低下
- () 2) 下痢
- () 3) 嘔気・嘔吐,
- () 4) 手足・顔がはれぼったい
- () 5) 皮膚の乾燥が目立つ
- () 6) 頑固な便秘
- () 7) 微熱がつづく
- () 8) その他 ()

37 【4-(2)】(生活機能 栄養・食生活)

食事に関してお聞きします。

- () 1) 食べ物が飲み込みにくいと感じる事がありますか？
- () 2) 食事中むせたり、咳がとまらなくなる事がよくありますか？
- () 3) 入れ歯の調子が良くない。
- () 4) 食べ物をかむ事がむつかしくなってきた。
- () 5) 食事の味があまりしなくなってきた。
- () 6) その他 ()

38 【4-(3)】(生活機能 現在あるか今後発生の高い状態・・・)

便・尿をもらすことがありますか？

はい ・ いいえ

2 (2) 栄養・食生活

高齢者に多く見られる栄養問題は、慢性的なエネルギー、たんぱく質の補給不足、あるいは疾患によってエネルギー、たんぱく質の欠乏した状態（以下「低栄養」という）である。要介護高齢者の「低栄養」は、内臓たんぱく質及び生活機能の低下をはじめ、感染症、褥瘡などの誘発に関わる。そこで、要介護状態の改善及び重度化の予防の観点から、「低栄養」に関連する原因として考えられる食事行為、総合的な栄養状態（「低栄養」）を評価する。医学的観点から栄養・食生活上の留意点を認める場合には具体的な内容を記載のこと。

・食事行為（問診35）

日常生活動作のうち食事について、どの程度、どのように自分で行っているかを評価する。以下の各選択項目の状態例にあてはめ、該当する□にレ印をつける。

自立ないし何とか自分で食べられる	自分ひとりで、ないし、見守り・励まし、身体的援助によって、自分で食べることができる。
全面介助	他の者の全面的な介助が必要である。

・現在の栄養状態

現在の栄養状態を評価する。以下の各選択項目の状態に当てはめ、該当する□にレ印をつける。また、医学的観点から、改善に向けた留意点について（ ）内に記入する（問診36, 37）。

良好	①過去6ヶ月程度の体重の維持（概ね3%未満）、②BMI（体重(kg)/身長 ² (m ²))=18.5以上、③血清アルブミン値が明らかである場合には、3.5g/dlを上回る、の3項目全てが該当する状態。 上記指標が入手できない場合には、食事行為、食事摂取量、食欲、顔色や全身状態（浮腫、脱水、褥瘡などがない状態）から総合的に栄養状態がよいと判断される状態。
不良	①過去6ヶ月程度の体重の減少（概ね3%以上）、②BMI 18.5未満、③血清アルブミン値がある場合には3.5g/dl以下、の3項目のうち1つでも該当する状態。 上記指標が入手できない場合には、下記の表を参考にすること。食事行為、食事摂取量、食欲、顔色や全身状態（浮腫、脱水、褥瘡などがある状態）から総合的に栄養が不良と判断される状態。

上記指標が入手できない場合には、下記の表を利用してください。

体重減少は3%以内	BMIが18.5以上	血清アルブミン値が3.5g/dlを上回る		栄養状態評価
満たす	満たす	満たす	→	良好
満たす	満たす	入手不可	→	下記の項目*で総合的に判断
満たす	身長測定不可の時	入手不可	→	膝下高から身長を換算して算出し（最後部別添付表①（ <small>☞</small> p.61）を参照）、その後下記項目で判断。
体重測定不可の時	満たす	入手不可	→	体重が測定不可能であった場合、栄養状態の評価は、下記*を参考に判断。その判断根拠を特記事項に記入のこと（ <small>☞</small> p.61）。
体重測定不可の時	身長測定不可の時	入手不可	→	

*【食事摂取量・食欲・顔色や全身状態（浮腫、脱水、褥瘡など）・経管栄養・静脈栄養など】
身長・体重が測定不可能の場合、参考資料（☞ p.61）を参照。

E3 (3) 現在あるかまたは今後発生の可能性が高い状態とその対処方針

日常の申請者の状態を勘案して、現在あるかまたは今後概ね6ヶ月以内に発生する可能性が高い状態があれば、該当する□にレ印を付けてください。また、身体的な状態とその際の対処方針（緊急時の対応を含む）について要点を記入する。

【尿失禁】（問診38）

- ①過去、3ヶ月～6ヶ月以内に尿失禁を認めたことがある。
- ②認知症の症状が進行して出現する可能性がある。

対処方針 → 排尿指導，オムツ使用，カテーテル留置

【転倒・骨折】

- ①本人に歩行する意欲と不十分ながらに歩行出来ること（転倒）。
- ②過去6ヶ月以内に転倒の既応のある場合。
- ③中枢神経，末梢神経障害又は筋力の低下によって歩行状態が不安定である。
- ④向精神薬，眠薬等の服用によって，ふらつきのある場合。
- ⑤メニエル氏病等“めまい”をきたす疾患のある場合。
- ⑥過去6ヶ月以内に骨折等の診断，治療を受けたことがある場合。
- ⑦骨粗鬆症の診断を受けている場合。
- ⑧認知症等のある場合。

対処方針 → 段差の解消，手すりの設置，ベッド柵の位置確認，見守りや一部介助。

●膝高から身長・体重を割り出す計算式

性別	測定値	計算式	誤差
男性	身長 cm	$64.02 + 2.12 \times \text{膝高} - 0.07 \times \text{年齢}$	± 3.43
	体重 kg	$1.01 \times \text{膝高} + 2.03 \times \text{上腕周囲長} + 0.46 \times \text{上腕三頭筋部皮下脂肪厚} + 0.01 \times \text{年齢} - 49.37$	± 5.01
女性	身長 cm	$77.88 + 1.77 \times \text{膝高} - 0.10 \times \text{年齢}$	± 3.26
	体重 kg	$1.24 \times \text{膝高} + 1.21 \times \text{上腕周囲長} + 0.33 \times \text{上腕三頭筋部皮下脂肪厚} + 0.07 \times \text{年齢} - 44.43$	± 5.11

1. 膝高の測定方法

①枕をしたままの状態ですべて仰臥位に寝かせ、測定するほうの脚の膝関節と足首をそれぞれ直角に曲げる。図1のようにかかどに固定ブレードを固定し、膝上部分を移動ブレードで挟み込む形でニューハイキャリバー（膝高計測器）を用い測定する。移動ブレードは膝よりやや上まで事前に伸ばしておき、次にゆっくりと膝にあて、皮膚をやや圧迫する程度に密着させ固定する。

この際、膝高計測器の本体が下肢骨と平行になっていることを確認する。

②読み取り窓の数値を0.1cmの単位まで読み取り記録する。

③上記方法を2回繰り返し、2回の計測値の差が0.5cm以内であるときにその平均値を測定値とする。

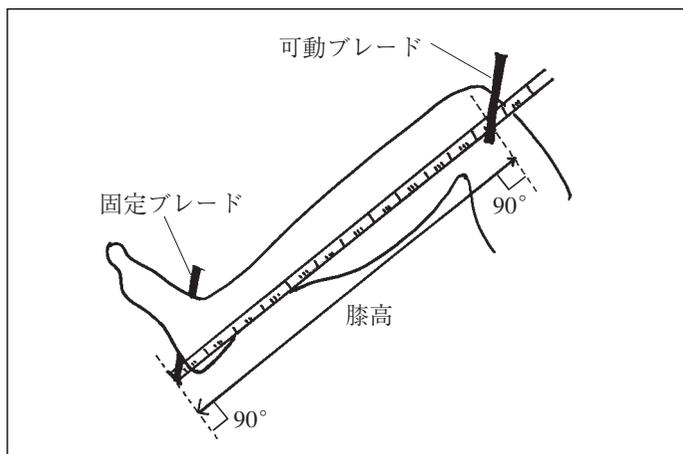


図1 膝高の測定方法